

公認会計士法友会会報

公認会計士法友会

第24号

平成30年7月1日

平成29年度公認会計士試験合格祝賀会・研修会を開催(P.10)



平成29年度定期総会、会員研修会及び懇親会のお知らせ

(日時) 平成30年7月9日(月)

定期総会 受付 17:00 開始 17:30

会員研修会 講演 18:00

場所:法政大学 富士見ゲートG601

演題:「新事業承継税制」

講師:杉山 康弘 氏

(あいわ税理士法人 代表社員)

懇親会 受付 18:45 開宴 19:15

法政大学 ボアソナード・タワー25階スタッフクラブ

(会費)公認会計士 10,000円

試験合格者及び会計士補 5,000円

※該金額のうち5,000円は平成30年度会費に充当いたします。
出欠席のご連絡は、送付しております往復ハガキもしくはメールにてお願いいたします。

目次

会長挨拶	2	平成29年度定期総会議案概要	9
平成29年度公認会計士試験合格者の近況	4	平成29年度公認会計士試験合格祝賀会を開催	10
雑感	6	日本公認会計士協会本部報告	11
「法政士業の会」便り	7	各種参加報告	11
寄附講座「実践会社実務論」開講報告	8	年度会費及び寄付金のご協力をお願い	12
ゴルフ大会	9	編集後記	12

同封物:会報、郵便口座振替用紙

会長挨拶

会長 太田 莊一(昭和52年卒)



公認会計士法友会の会員の皆様、各方面でのご活躍、お喜び申し上げます。

弊職も既に3年目に入っておりますが、会員の皆様には、いつも多大なるご支援とご賛同をいただき、誠にありがとうございます。毎年決まったように貴重な浄財をご寄附いただいている会員、また、総会、祝賀会等の行事には必ずご出席いただいている会員諸氏

には、誠に感謝に堪えません。本当にありがとうございます。おかげ様をもちまして、法政大学の内外における公認会計士法友会のプレゼンスを更に高めることができますのも、会員の皆様方のご尽力とご協力の賜物であると、役員一同を代表いたしまして深く感謝申し上げます。

法友会の目的である『会員の相互交流・親睦を深めるとともに、母校の発展と後進の育成に貢献する』に基づき、新しい若い世代の会員への橋渡し役になるべく、力不足ながら、事務局長はじめとする役員の方々のご協力とご支援を受けながらなんとか務めさせていただいております。

今後とも、会員の皆様からのご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、今回は、この1月から6月までの法友会活動についてのご報告と活躍するOB会員の紹介、私事も含めた雑感を述べさせていただきたいと思います。

【平成29年度公認会計士試験合格祝賀会について】

平成30年1月27日(土)に、法政大学における『後進の育成』のための活動として最大のイベントである公認会計士試験合格祝賀会を開催いたしました。法政大学の田中優子総長、桑野秀光校友会会長、日本公認会計士協会からは柳澤義一副会長にご臨席いただき、合格者に対してのお祝いと今後の会計士としての心構えや業界の将来を踏まえた激励の言葉をいただきました。(祝賀会の詳細報告については、後掲の記事ご参照。また、3月の法政大学HPの法政フォトジャーナルや校友会HPを是非ご覧ください。)

合格者の皆さんにはこの感激を忘れずに、また当日ご都合で出席出来なかった合格者には、校友会からのお祝い品が郵送されていると思います。お世話になった先生方、先輩の方々、そして御父母への感謝の気持ちを忘れずに、実社会でご活躍されることを期待しています。そして来年の合格祝賀会には是非、先輩会員として出席してください。

ご来賓の皆様方、そして会員の皆様にはお忙しい中をご出席いただきまして本当にありがとうございました。来年度も是非よろしくお願い致します。

【寄附講座の継続開講について】

『母校の発展と後進の育成』という法友会の目的の活動として、現在いちばん注力しております「経営学部専門公開特別講座としての寄附講座」を、昨年の秋学期に引き続き、春学期も開講いたしました。これまでと同様に、実務の第一線で活躍している当会員の公認会計士14名が、実務のトピックなテーマを学生にわかりやすく、そして毎回熱意をもって講義しております。(詳細については、後掲の記事ご参照。)今回も講師をお引き受けいただきました会員の方々には本当に感謝申し上げます。是非よろしく願います。

会員の皆様には懐かしい58年館の教室にぜひ聴講に来ていただきたいと思っております。また、今後はさらに若手の会員にも講師をお願いしたいと思いますので、是非ともご協力のほどお願いいたします。

【法政大学校友会及び「法政士業の会」における活動について】

一般社団法人法政大学校友会においては、前号でご紹介しました「士業の会」ブロックでのCCS活動が本格的に始まっております。3月には、ブロック代表議員会議が開催され、当会顧問の和食克雄会員が、ブロック長就任推薦を受け、引き続き校友会理事・「士業の会」ブロックの代表として校友会本部で活躍していただいております。6月の総会で承認される校友会の新会長のもとでの新体制においては、特に、若手会員の参加をより促進するための施策を重点的に進めていく方針であり、「士業の会」ブロックとしては、一般卒業生に対する士業によるワンストップ相談会の開催企画や、若手会員中心の懇親会の開催等、より一層の活動を拡充しており、公認会計士法友会としても積極的にこれに参画しておりますので、会員の皆様には、これらの活動に是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、毎回お願いしております終身会員登録の拡充につきましては、今年度は100名を超える規模の終身会員登録を目指しておりますので、会員各位にはおかれましては、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は、校友会の3大イベントのうちの2つが、私の出身県であり現在も在住している千葉県で開催されます。既に皆様の方にもご案内が行っているかと存じますが、「第26回法政大学全国卒業生の集い」千葉大会が、10月5日(金)～7日(日)に開催されます。(詳細については、後掲の紹介記事参照。)

公認会計士法友会としても、この機会に全国の会員の皆様との交流をはかるべく、法友会会員での懇親(二次)会等も企画したいと考えております。

また、これに先立ち、9月3日(月)には、同じ千葉県市原のキングフィールズGCにおいて、オール法政「総長杯」ゴルフ大会が開催されます。こちらにも是非多数の会員がご参加されることを期待しております。(後掲の紹介記事ご参照。)

【諸先輩方の活躍と近況報告】

私事ですが、昨年、1979年度卒の川崎定昭会員の紹介推薦で、「日本簿記学会」に入会いたしました。入会資格は、公認会計士であれば、研究論文等の実績は必要なく、実務家として学会に参加できます。学会では、各大学の簿記研究の著名な教授や会計基礎教育に携わる商業高校の先生まで幅広い方々と交流することができます。川崎定昭会員は今年6月に開催される関東部会において自由論題報告講演するなど、学会内で大変活躍されており、今後、多くの法友会会員が入会されることを望まれています。(ご興味のある方は、法友会事務局までご連絡ください。連絡先をご教示します。)

私の4年先輩である高村茂会員(1973年度卒)から、故郷の山梨に移住されてからののお便りと古希を迎えてCPA登録返上のご報告をいただきました。(次号では、是非、近況報告をご寄稿いただきたいと思います。)今後、現役を引退された会員の皆様から登録を返上される先輩方も増えてくると思いますが、公認会計士法友会の会員資格はCPA登録ではなく、会則で「公認会計士試験の合格者」とされており、よって皆様、全員『終身』会員ですので、末永くよろしく願っています。

【卒業生の寄付文化の醸成について】

さて、ご存知のとおり、法政大学は、今や毎年の志願者数が10万人を超え、全国第2位(関東ではトップ)を誇り、文科省の東京23区規制にもかかわらず、入学者数も高い水準を維持しております。しかしながら、この多数の学生を支援するために受け入れる寄付金の総額や大学の総収入に対する割合は、国立大学や一部の著名私立大学に比べるとまだまだ少ない状況であります。大学としても、特に卒業生、OB会を中心とした企業や団体からの寄付の受入れをより一層拡充すべく、校友会等を通じて各OB会や卒業生個人に対して寄付金の拡大支援のお願いをしているところであります。

海外(欧米)の大学は卒業生OB等からの寄付の割合が高く、OBの母校や後輩に対する援助意識が非常に高いと聞いています。寄付文化の違いかもしれませんが、日本でもそのような意識がより一層醸成されることを願っております。

法友会会員諸氏の中にも、法政大学のLU(リーディング・ユニバーシティ)募金等に毎年、ご寄付いただいている会員が多数いらっしゃいます。この場をお借りして厚く感謝申し

上げます。

【法友会の会員寄付の拡充について】

私共、法友会としても、今後、特に注力していきたい活動といたしましては、会員の皆様からのご寄付浄財をいかにして拡充していくかという課題に対する対応です。法友会活動は会員の皆様からの会費・寄付金の浄財により成り立っています。昨今、会員の高齢化とご寄付賛助者数の減少により、当会の財政収入にも少なからず影響が出ております。一方、活動の範囲は拡大しており、特に、一昨年度より創設いたしました大学高度会計人育成センター主催の簿記チャンピオン大会成績優秀者に対する公認会計士試験受験のための「奨学支援金制度」についてはこれを継続し、さらに充実したものにしていくためには、原資として会員の皆様方からのご寄付浄財が不可欠であります。今後も公認会計士を目指す学生の経済的支援のための活動を拡充していくことを検討していきたいと思っておりますので、会員の皆様には、是非ともご理解とご協力のほどお願いいたします。

【最後に】

昨今、経済界は人手不足で学生の売手市場の状況が続いており、公認会計士試験受験を目指す学生もなかなか増えません。今年も1,100名を超える試験合格者が輩出され、当法友会にも多くの新しい仲間が増えました。しかしながら、今回は残念ながら、法政出身の合格者が前年までに比して大幅に減少し、大学別ランキングでも大きく順位を下げてしまいました。(非公式ですが、19位です。)

これまでトップ10の位置を維持してきた諸先輩方のご功績に応えるためにも、また、今後も法政の学生からより多くの公認会計士を輩出するためにも、さらに、将来のある若い皆さんが活き活きとして集い結べる業界・魅力ある土業となるよう、法友会としてもまだまだやるべきことはたくさんあります。

毎年、大学監事として三月と四月に日本武道館で行われる学位授与式と入学式へ参列させていただいておりますが、新入生とその保護者約4千人を前にして、新入生全員の目の輝きに見つめられ、そのたびに、若い世代に対する我々の責任の重さをしみじみと認識させられております。

今年は、卒業式と入学式(午前と午後の二部制)とで計四回、日本武道館での校歌斉唱とエールをしました。「フー！！フー！！法政、ガンバレ！！ガンバレ！！卒業生と新入生」



平成29年度公認会計士試験合格者の近況

合格者の近況を自ら報告していただくコーナーです。

●白杉 洸斗(平成29年卒)



・はじめに

法友会の皆様、いつもお世話になっております。白杉洸斗と申します。

私は、経営学部経営学科在学中、公認会計士試験合格を目指し、卒業後約半年間の浪人生活を経て、昨年の2017年度論文式試験に合格することができました。

現在は、新日本有限責任監査法人で主にメーカー業界の監査業務に従事しています。

・公認会計士を目指した理由

私が公認会計士を目指した理由は、大学1年目にアルバイト等をして漫然と毎日を過ごす中で大学生活の中で何か大きなことに挑戦してみたいと思ったからです。数ある資格の中で公認会計士を選んだのは、公認会計士が活躍できるフィールドは監査業務、税務業務、経營業務、コンサルタント業務等と多岐にわたり、将来の選択肢を広げられると考えたからです。また、私は会社に依存しない自由度の高い働き方に憧れており、何か得意分野を持つことで会社に依存しない自由度の高い働き方ができるのではないかと考えました。そこで、経済界最高峰資格である公認会計士資格をとることで会計・財務分野で大きな強みを持つと考え、公認会計士資格取得を目指すことにしました。

・受験生活

私は受験生活中、金銭的理由から週3~4でアルバイトをやりながら勉強をしていました。

しかし、アルバイトをやりながら勉強することは想像以上に大変で、思うように勉強時間を確保することができず、そのため成績もあまり良くありませんでした。そんな中で短答式試験を迎え、1問足りずに落ち、とてもショックを受けたのを今でも覚えています。あんなに一生懸命に勉強したのに落ちたことから、自分が公認会計士試験に受かることなんて無理なのではないかと後ろ向きになっていました。

また、この時期は周りの友達がサークル等でとても楽しそうなので、それが羨ましく思え、公認会計士試験の勉強を辞めようかと思うこともありました。

そんな時、家族や友達が励ましの言葉をかけて私を支えてくれました。この時に家族や友達に励ましの言葉をかけてもらえなかったら、公認会計士試験の勉強を辞めていたかもしれないので、家族をはじめ周りの方々には大変感謝しております。

それから、少し遠回りはしましたが、昨年合格することができ、あの時、諦めなくて本当に良かったと思いました。

・監査法人での業務

現場に出て3か月がたちましたが、その間だけで20社以上の会社に行きました。

そのため、毎日毎日、初めて会う人ばかりで多少の気疲れはしましたが、会う方々みなさんとても親切で、不明点等を質問すると懇切丁寧に教えて下さり、とても充実した環境で仕事ができていると感じています。

会計士は仕事柄、社内の人だけでなくクライアント先等色々な方とお話する機会が多く、様々なお話を聞くことができます。例えば、クライアント先の方がご自分の趣味について熱く語っていて、それに感化されて趣味が新しくできたなんてこともありました。

また、クライアント先の方と積極的にコミュニケーションをとることによって質問に答えてもらえるだけでなく、プラスアルファで有益な情報を教えてくれたりすることもあり、コミュニケーションの重要性を改めて認識しました。

しかし、中には理解が不十分なことにより質問が先輩やクライアントの方に伝わりづらいこともあったので、まず自分の中で質問内容をしっかり整理してから質問するよう心がけるようにしていきたいです。

今後とも、積極的にコミュニケーションをとり、円滑な監査環境を構築していけるよう努力していきたいと思えます。

また、出張に行った際は仕事を定時で終わらせて会社の方にご当地の美味しいものを食べたりするので、旅行気分が味わえ、旅行好きの私にとってたまにある出張は楽しみであつたりします。

既に出張で長野や大阪には行ったので、これからは違うところにも行ってみたいです。

・さいごに

去年卒業して以来、大学にはほとんど行ってないため、補習所等の勉強をする際には図書館に訪れ、受験生時代を思い返し気持ちを引き締めなおして勉強したいと思えます。

これからは、公認会計士試験の受験時代を支えてくれた家族や友達等に恩返ししつつ、楽しんで仕事をしていきたいと思えます。

新日本有限責任監査法人 第1事業部 白杉 洸斗

●高羽 直(4年在学中)

法友会の皆様、いつもお世話になっております。法学部法律学科4年在学中、平成29年度合格の高羽 直(たかばなおき)と申します。現在は、あずさ監査法人で非常勤として働いております。

・高校時代まで

出身は東京都の国分寺市というところですが、都心からは少し離れていますが、静かで落ち着いた暮らしやすい街です。

高校までの私は一言で申しますとサッカー少年でした。2人の兄の影響で小学校1年生からサッカーを始めました。ポジションはずっとゴールキーパーです。高校では、よりサッカーを上手くなりたいと考え、強豪校である群馬の前橋育英高校に入り寮生活をしておりました。思うように試合には出られませんでした。寮生活や部活を通して前向きに努力することの大切さを学びました。そのことは会計士の勉強をする際にも大きく役立ったと思います。

・公認会計士を目指した理由

公認会計士を目指した動機は、大学生生活をより意味のあるものにしたかったからです。毎日遊びやバイトをして過ごすのも楽しそうだったのですが、そうするとのちに大学生活を振り返って何をしていたのか分からなくなってしまうのではないかと思います。また、今までサッカーばかりをしていて、真剣に勉強をしてこなかったため、就職活動に対する不安もありました。そんな時に、公認会計士の存在を知り、なんとなく大学生を送るよりチャレンジしてみようと思ったのが、公認会計士を目指した大きな理由です。

・受験時代について

勉強を始めた当初は、とにかく先が長く範囲も広いので、いつまでたっても終わらないのではないかという風感じていました。しかし、だんだんと予備校にも知り合いが増えてきて、お互い競争しながら勉強することにより、会計士受験を乗り切ることが出来たと感じています。

・現在の活動

現在は、あずさ監査法人にて非常勤として働いております。大学のゼミの授業があるため、週に4日の勤務でしたが、4・5月といういわゆる繁忙期を初めて体験しました。まだ、わからないことも多く、迷惑をかけることもありましたが、周りの方々のサポートもあり、なんとか乗り切ることが出来ました。正職員として働く来年からは今年の経験を活かし、仕事の質を高められるように日々精進して参りたいと思っております。

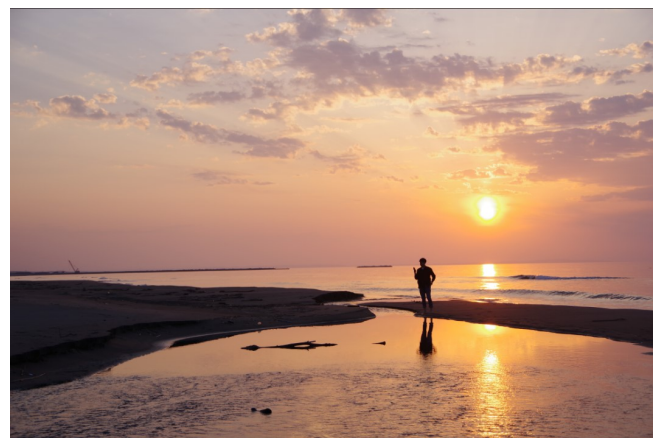
また、今年の8月より、法政大学で頂いた奨学金を利用して、アメリカのサンディエゴに4か月ほど語学留学致します。英語は苦手ですが日常会話すらままならないのですが、仕事で英語の資料に触れる機会もあり、このままではだめだ一念発起致しました。現地での生活など不安なこともあります。英語力を向上させるとともに、現地をいろいろ観光してみたいと考えております。

・プライベートの過ごし方

私は、旅行に行くのが好きで、先日には試験が終わってから買ったカメラを持って北海道の知床へ行きました。知床は世界自然遺産にも選ばれていて、壮大な景色が広がっていました。そんな絶景を見て回っていると心が浄化されるような気がしてとても楽しかったです。監査法人ではまとまった休みも取りやすいので毎年旅行に行ってみようと思っております。

・最後に

先日は平成29年度公認会計士合格祝賀会にお招きいただき誠にありがとうございました。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞ宜しくお願い致します。



雑感

佐竹 健二(平成12年卒)



法友会会員の皆さま、こんにちは。法友会の幹事を担当している佐竹と申します。

縁あって法友会の運営に参加することになりました。学生の頃は合格祝賀会など開催してくれている法友会がどのように運営されているかなんて考えもしなかったのですが、先輩に声を掛けてもらい幹事として参

加すると、役員の皆さんが本当の手作りで会を運営していることを知りました。

まずは簡単に自己紹介させていただきます。

思い起こすと96年(学生番号966XXXXでした。)法政大学経営学部の門をくぐり、大学に入って何をしようか、大した目標もなかった自分ですが、入学後のオリエンテーションで公認会計士講座の話を聞きました。当時の私は公認会計士を目指すというよりは、「簿記の資格が取れる」という程度の認識で講座に参加しました。簿記3級、2級と勉強を進めるうちに、その延長にある会計士を本格的に意識するようになりました。また、周囲の友人たちも会計士を目指して勉強を始める中、私自身もやってみようという気持ちになりました。大学時代に一緒に勉強した友人は今でも連絡を取りながら、刺激を受けています。

試験合格後は監査法人に勤務し、法定監査を中心にIPO支援などもやりながら現在に至っています。

プライベートでは、2004年に結婚、現在は中学生と小学生の3人の子供に囲まれてにぎやかに日々過ごしています。

【情報管理の難しさ】

さて、皆さま、情報管理ってどのように考えていますか？

突然の漠とした質問で恐縮ですが、先日我が家で子供が家のタブレット端末を持って私のところに来ました。動画投稿サイトを見ていたところ、何かの拍子でIDとパスワードを聞かれているが、わからないというのです。投稿などが可能なログインはしない・させないつもりでしたので、そこはキャンセルしましたが、(私自身もそうですが)知識もないのに、情報を公表できるようなツールが巷にはあふれています。子供たちは操作の手軽さから、タブレットやスマートフォンを気軽に触って遊んでいます。先の動画投稿サイトやtwitter・FacebookなどのSNSは簡単に情報発信ができる反面、個人のデータが簡単に流出する可能性もあります。先日Twitterで法政大学の某学部の授業風景が投稿されて少し話題になったという情報も目にしました。

公認会計士の仕事は守秘義務を負っており、当然に厳重な情報管理の下で行われる必要がありますが、この面に対するクライアントからの期待は日に日に強まっているのを感じます。

仕事で対面するクライアントでの状況はいかがでしょうか？

最近IT化が進み、企業では個人情報を含む多くの機密情報を保有しています。実は昨年担当している仕事の中で、クライアントから個人情報が流出したという事件が発生してしまい、テレビなどでそれなりのニュースとしても取り上げられました。当然ながらクライアントは情報セキュリティ対策を講じていましたが、悪意ある外部アクセスで個人情報が流出してしまい、クライアントの情報システム担当者は、連日夜も眠らず対応を続け、また、個人へのお詫びの費用など通常以上の費用が必要となりました。

企業の経営者もITの重要性、情報セキュリティの重要性を認識して対応していると思いますが、悪用する側の技術も日々進化して、「たちごっこ」の状況です。

些末な身の回りの話から始めてしまいましたが、情報管理・リスク管理は本当に難しいと感じます。

【公認会計士の仕事】

全く話は変わりますが、実は佐竹家は妻も法政出身、公認会計士です。監査法人勤務をしていましたが、出産を機に監査法人を退職・廃業し、専業主婦をしていました。3人の子育てにそれなりに忙しく過ごしていましたが、数年前から会計士登録を再開することになりました。

きっかけは地元の幼稚園です。

当時理事長を兼ねていた園長先生と話す機会があり、私が会計士であることを知ると「監査できない？」とおっしゃるので

聞けばこれまでは必要ななかったけれども、園の拡充で補助金を受けるため監査が必要とのこと。記帳をお願いしている税理士事務所のツテで会計士を紹介してもらうこともできるけど、どんな人かもわからないし、近くで知っている人だと安心、というのです。

私自身は勤務先の仕事があつて難しいけれど、妻がやれるのではないかと話をしたところ、是非お願いしたいと話が進み、数年前から幼稚園の監査を担当しています。

人とのつながりの中で、専門家としてお願いされて仕事ができる公認会計士の仕事の素晴らしさを、妻を通じて身近なところでも実感しています。

また、この仕事に関しては、私の大学の同級生の友人である法友会会員にも助けてもらいながらやっており、とても感謝しています。

【最後に】

全くまとまりのない話になってしまいましたが、法友会会員の皆さまの活躍を祈念しつつ、筆をおかせて頂きたいと思えます。

今後どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

「法政士業の会」便り～法政大学付属校におけるキャリア支援活動

山田 努(昭和59年卒)

法政士業の会は会員相互の交流・親睦のみならず、法政大学への貢献を目的としており、法政大学付属校連携室と協議を行い、第2期の事業企画として付属校から法政大学への進学内定者(高校3年生)向けの職業紹介ガイダンスを実施しました。

付属校	開催日	対象者	講師	
法政高校	2月15日	法学部進学者	弁護士 不動産鑑定士	高林良男氏 柘植大徳氏
		経営学部進学者	不動産鑑定士 公認会計士	柘植大徳氏 川瀬博之氏
法政二高	2月6日	法学部進学者	行政書士	大坪力基氏
法政女子高 (現 法政国際高校)	2月26日	法学部進学者	弁護士	渡邊倫子氏
		経済学部進学者	公認会計士 税理士	伊藤章子氏 齊藤希一郎氏
		経営学部進学者	税理士 公認会計士	齊藤希一郎氏 伊藤章子氏

なお、法政士業の会とは別に、法政二高の経営学部進学者向けに公認会計士の内山圭太氏が「会計学入門～財務諸表の読み方を学ぶ～」を平成30年1月10日に講義されています。

これらの活動が付属校の生徒さんのキャリアプランの選択肢を拡げるとともに、数年後の公認会計士試験及び他の専門士業資格試験における法政大学の受験者・合格者の増加に結び付くことを信じてやみません。

川瀬さん

聞き入る学生の様子

内山さんのレジュメ



<参考>簿記とは？

- 財務諸表は簿記(財務諸表作成の基本的なルール)に基づいて作成される
- 簿記とは「帳簿記入」を略した言葉であり、その起源は数百年前のヨーロッパに遡る。日本への本格的な輸入は明治時代(※諸説あり)。
- 簿記で登場する言葉には「借方」、「貸方」、「貸借対照表」等、日本語で意味を捉えてしまうと意味が分からなくなるものが多いが、これは当時の日本人が外来語を無理やり訳した結果であるため、あまり深い意味はない。

<Column>～公認会計士は数学が得意？～

公認会計士は数字を扱う仕事であるせいか、数学が得意というイメージが世間に浸透しているようですが、実際の仕事ではExcelや電卓を使って計算を行うため、一般の人と能力的にはそれほど変わらない、というのが個人的な印象です。むしろ計算は常にデジタルに頼っているので、計算能力は年々低下しているような気が...



寄附講座「実践会社実務論」開講報告

川村敬史(平成18年卒)

公認会計士法友会の公認会計士が母校法政大学の学生に会社の実務をわかりやすく解説しつつ公認会計士の業務を紹介する寄附講座「実践会社実務論」が2018年4月12日に開講しました。

2018年度は昨年度と異なり秋季でなく春季での開講です。

前回開催した秋季寄附講座の受講生は毎回50人前後の出席者数で当期の寄附講座はどれぐらいの人数が集まるか気になってしまいましたが蓋を開けてみると初回から席があつという間に埋まってしまうという大入満員の状態となりました。

あまりに多かったのでより大きい855教室(収容人数132名)に変更となったものの初回のガイダンスと講義で受講を決めた学生がさらに別の友人学生を誘ったためか受講生がさらに増加し教室が満員の状態は変わらず受講人数が非常に多く6人掛けの座席に間隔を開けず詰めて6人が座らなければならないという大変混み合い熱気が立ち込める状況になってしまいました。

このため教室は再び変更となり現在は58年館3階にある834教室で寄附講座を開講中です。

また今回より寄附講座は90分でなく100分授業となり授業時間が10分間延長されることになりました。

その一方で授業実施回数が15回から14回に変更され寄附講座も前回の秋季寄附講座より1回分減っています。

これは法政大学が2018年度より授業時間を1 Semester 100分×14回の授業実施に変更したためです。

授業時間と授業実施回数を変更した趣旨等は法政大学のホームページにある2018年度からの授業時間割・学年暦の改定に詳細が記載されていますが討論や質疑応答等の時間を確保し学生の思考力を高めたい、夏休みを長くしたい(変更前より6日長くなります)、祝日の授業を減らしたい(変更前より3日祝日授業が減ります)、といった背景があるようです。

なおこの変更により市ヶ谷キャンパスでの時間割は1限が9時から10時40分、2限が10時50分から12時30分、3限が13時10分から14時50分に変更されており寄附講座は秋季に行われた前回と同様木曜2限の開講ですが開始時間は前回よりも20分早くなりました。

以前は1限も9時30分からの開講だったので朝の1限目から授業がある学生はこれまでよりも30分早く大学に来なければならない一方でお昼休みは10分減って40分(以前は12時40分から13時30分までがお昼休みでした)なのでなかなか時間に余裕がなく学生も忙しそうです。

ただその反面で授業の終わりに感想や授業での気付きなどを書いてもらう出席票を見ると表面だけでは書ききれず裏面まで使ってびっしり感想等を書いて提出してくれる非常に熱意がある受講生も少なからずいて授業時間が10分増えた効果はあったかもしれないと思いました。

さてこの記事を書いている現在の時点で寄附講座もすでに6回目までが終了しました。

全部で14回分あるのですでにほぼ半分が終了しています。

寄附講座の受講生と講師陣との交流会も開催が決まり6月21日木曜日ボアソナード・タワー25階スタッフクラブにて行われることとなりました。

この懇親会は寄附講座が毎回講義形式である性質上、質疑応答の機会が少なくなりがちなためもっと質疑応答等の時間を確保し授業の理解度をより深める、公認会計士の仕事や勉強などについて法政大学OBの公認会計士がリラックスした雰囲気できつぱらんに説明し公認会計士という資格・職業に興味を持ってもらうといった趣旨で開催するもので毎回多数の受講生、法友会会員が参加します。

2018年度の寄附講座が開講して早々に昨年の寄附講座懇親会に参加してくれた昨年の受講生と大学でばったり会い少し話をする機会がありましたが彼らがちゃんと寄附講座のことを覚えていてくれてちょっと感動しました。

寄附講座実践会社実務論で学んだ知識を社会に出てからも役に立ててもらえるだけでなく学生時代の思い出として受講生の中に残ることを考えると懇親会も開催してよかったと思えます。

当期の寄附講座実践会社実務論の講師を引き受けてくださった法友会会員の皆様方、伊藤さん、赤岩さん、古田土さん、松原さん、仁木さん、山田さん、三浦さん、草深さん、發知さん、森口さん、石川さん、梅村さん、河西さん、越智さん、繁忙期にもかかわらず誠にありがとうございました。

最後になりますが寄附講座実践会社実務論は毎週木曜日、法政大学市ヶ谷キャンパス58年館3階834教室で2限(10時50分から12時30分)にて開講中です。

全14回の講義で最終回は7月19日となります。834教室は収容人数300人以上の大教室なので席に余裕はありません。法友会会員でしたら受講生でなくても講義に出席できますのでご興味がある方は直接834教室にお越し下さい。

今後とも宜しくお願い申し上げます。





ゴルフ大会

石川正敏(昭和58年卒)

第31回CPA十月会コンペ開催のご案内

今年の公認会計士大学対抗ゴルフコンペ「十月会」の開催は、昨年に引き続き以下の概要で開催予定です。2015年の十月会で我が校が優勝し、昨年まで規定により優勝の権利がありませんでしたが、今年より優勝が狙えます。是非、多くの方からの参加申込をお待ちしております、皆様、是非お誘いあわせの上、ご連絡下さい。

日時:2018年10月8日(月曜日、祝日)

場所:茨城ゴルフ倶楽部(つくばみらい市)

交通:電車=つくばエクスプレス「みらい平」駅から倶楽部バスで5分
車=常磐自動車道「谷和原インター」から約15分

茨城ゴルフ倶楽部は、2009年から女子メジャー大会「サロンパス杯」の開催コースであるとともに、2013年の男子日本オープンの開催地にもなった名門コースです。

皆様のご参加お待ち申し上げます。

第20回法友会ゴルフコンペのご案内

上記、十月会に先立ち、同コースにて「第20回法友会ゴルフコンペ」を8月～9月頃の平日に計画しております(すいません、日程はこれから検討です)。初めての方も、皆様お誘いあわせの上、気軽にご参加下さい。お待ちしております。

第17回オール法政ゴルフ大会「総長杯」のご案内

2018年9月3日(月)キングフィールズゴルフクラブにて、校友会主催による大コンペが企画されております。

昨年も、田中総長がご参加され、ゴルフクラブ貸切のなか、朝から法政大学校歌が流され、盛大に開催されました。

月曜の平日ではありますが、組合せは申込者グループ毎になりますので、気軽にご参加下さい。なお、東京駅及び五井駅からクラブバスも運行される予定です。

ご連絡お待ちしております。

ゴルフ関係の、ご参加申込、お問い合わせは下記までお願いします。

eメール:ishikawa@aiwa-tax.or.jp

FAX:03-5715-3318(あいわ税理士法人 石川正敏宛)



第16回オール法政ゴルフ大会にて

平成29年度定期総会議案概要

事務局より

平成30年7月9日に開催する定期総会の議案概要をお知らせいたします。

報告事項

- ・会員数の推移
- ・法友会活動の活性化について
- ・活動実績全般の報告
- ・会費納入状況について
- ・収支報告

審議事項

1. 活動計画

- ・法友会活動の活性化について
- ・新年度の活動予定事項について
- ・会費納入状況と改善方策の検討について
- ・予算案

決算・予算概要(単位:千円)	H29年度予算	H29年度実績	H30年度予算
会費・寄付金	3,550	2,306	3,550
校友会より	720	300	570
収入合計	4,270	2,606	4,120
総会・祝賀会開催費用	2,110	1,551	1,910
終身会員登録	600	-	600
奨学支援金	550	50	550
その他	1,010	741	835
支出合計	4,270	2,343	3,895
収支差	0	262	225
前期繰越	949	949	1,212
次期繰越	949	1,212	1,437

平成29年度公認会計士試験合格祝賀会・研修会を開催

事務局

2018年1月27日(土)、市ヶ谷キャンパスの外濠校舎6階 薩埵ホールにて「平成29年度公認会計士試験合格祝賀会」を開催しました。

田中優子総長をはじめ、日本公認会計士協会の柳澤義一副会長、大学常務理事、後援会、校友会、同窓会及び士業の会の役員、学部長、担当教授などの大学関係者、公認会計士のOB・OG、約120名が出席し、盛大な会となりました。



太田会長

今年度の会計士試験は全体で1,152名が合格、このうち法政は16名と昨年に比べ大きく減っています。全体に占める割合も1.3%という結果になってしまいましたが、この厳しい状況の中、皆さん、よくぞ合格してくれたと感謝しています。

皆さんには公認会計士としての大きな未来が待っています。

これから来賓の方々、OBの方々からお祝い・激励の言葉があると思いますので、ぜひそれを胸に刻んでいただいて、また、本日は皆さんが就職する法人のOBや個人で活躍しているOBがたくさん来ています。

先生やご家族の方々など皆さんを支えてくれた人への感謝の念を忘れずに、これからの会計士人生を歩んで行っていただきたいと思います。



田中総長

公認会計士という仕事は社会的責任が大変大きな仕事と思っています。経済における不正、虚偽、誤りを皆さんが監視し、正していく、そういう大変大きな役割を担っており、社会に貢献していく、そういう仕事です。

私は数というよりも、法政出身の会計士は大変良い仕事をしてくれる、社会にためになっている、そういう仕事をしてほしいと思います。

監査だけではなく、コンサルティング、経営戦略を作るといった創造的な仕事もある。

今、世界はどう動いているのか、日本の社会はどういう方向に行くのがよいのか、そういう広い視野を持って、経済を適正点、みなさんそれぞれが進む方向、価値、そういうものを育てていただきたいと思います。

つまり、人としてどういう仕事をしていくかということを常に考えて欲しい。それを考えること、法政出身の会計士が良い仕事をしていているといわれること、そういう職業人になると思います。そういうことを心より期待しています。



日本公認会計士協会 柳澤副会長

日本公認会計士協会としても新人を迎えることができ、大変うれしく思います。

明治維新から150年、CPA制度70年といった節目に合格されたということは、これも何かの縁と思う。

そして縁という意味では最も大事なのが大学のOBとのつながりです。

みなさん、ほとんど監査法人に勤務されると思いますが、監査法人は人と人とのつながりが作りにくい組織になっています。

その中で何が大切かというと、同窓生とのつながり。一生続きますし、監査法人をやめるときでも、個人で独立するときでも、相談できるのは同窓の先輩です。

ぜひ、同窓の絆を大事にしてください、これから会計士人生を歩んでいただければと思います。



日本公認会計士協会本部報告

酒井 宏暢(昭和57年卒)

日本公認会計士協会中小企業施策調査会担当常務理事の酒井です。

本日は協会の中小企業支援の取組みについてお話しします。

協会は中小企業支援も重要施策の一つと位置づけ、三年前から上記調査会を立ち上げて様々な施策を行っています。

同調査会は、「企画専門部会」「海外展開支援部会」「事業承継支援専門部会」及び「中小企業会計専門部会」の四部会があり、中小企業小規模事業者支援における会員の関わり方について、国や関係諸団体が行う制度・施策を踏まえながら調査研究を進めています。

具体的な成果物といたしましては、会員がどのようなステージにある中小企業に対しても様々な種類の業務を提供できることを示した「中小企業支援は公認会計士におまかせくださ

い」、会員が事業承継のどの段階でも支援サービスを提供できることを示した「事業承継は公認会計士にご相談ください」という2種類のリーフレットを作成いたしました。

また、事業承継に関する研究報告「公認会計士による中小企業の事業承継支援—従業員承継の支援手法について(第2号)」「公認会計士による中小企業の事業承継支援—事業継続・廃業に対する早期判断とその支援手法について(第3号)」を公表いたしました。

これら紹介したリーフレットや研究報告によって会員の支援業務をご理解いただき、中小企業経営に役立てていただければ幸いです。

以上につきまして、会計・監査ジャーナル5月号に、インタビュー記事が掲載されていますのでぜひご覧ください。

各種参加報告

「オール法政新年を祝う会」参加報告と今年の校友会イベントのご案内

太田 荘一(昭和52年卒)

2018年の幕開けの1月21日(日)にグランドニッコー東京台場において、一般社団法人校友会の「オール法政新年を祝う会」が開催され、当会からは、和食顧問をはじめとする10名が参席いたしました。今回は若手会員の川瀬博之会員にも参加いただきました。(会の詳細は、法政士業の会HPご参照ください。)

さて、今年は、校友会の3大イベントが秋から目白押しです。

- 9月3日(月)のオール法政「総長杯」ゴルフ大会(於キングフィールズGC)(詳細は、別掲紹介記事ご参照。)に続き、
- 「第26回法政大学全国卒業生の集い」千葉大会が、10月5日(金)、6日(土)、7日(日)に開催されます。全国各県の校友会が持ち回りで開催するもので、首都圏で開催されるのは4年前の埼玉大会以来ですので、会員の皆様には是非ご参加のほどよろしくお願いたします。(法政卒業生であれば、校友会終身会員に限らず、どなたでも参加できます。)毎回、全国から卒業生の

方々が大量参加されますので、特に地元在住の会員の皆様には、5日(金)の記念ゴルフ大会(於キングフィールズGC)や6日(土)の東京ベイ幕張ホールでの式典・懇親会には是非とも奮ってご参加のほどお願いたします。(参加希望者は、大学のHPから「卒業生の方々へ」をクリックし、校友会HPの案内をご参照ください。)



公認会計士三田会「新人歓迎会」兼 懇親会参加

山田 努(昭和59年卒)

2018年3月27日(火)銀座の交詢社にて新人歓迎会 兼 懇親会が開催され、太田会長と山田の2名が出席してまいりました。以前から一度交詢社に行ってみたくておりましたので、いい機会をいただきました。想像どおり慶應義塾の歴史を感じさせる雰囲気の中で2017年度の公認会計士試験合格者157名、43年連続1位という輝かしい実績と多数の参加者で活気あふれる懇親会が行われていました。合格者数は法政(16名)の約10倍と今年度は大き

な差が出てしまいましたが、次年度は法政も合格者数が伸びることを期待しています。また、法政の合格祝賀会の運営は大学総長・常務理事、校友会・後援会・他士業団体会長などの来賓や現役応援団などは豪華ですが、本来の主役である公認会計士(合格者・法友会会員)の参加を増やして、慶應義塾のような活気のある祝賀会にしていきたいと感じたところです。

東京六大学野球法政VS明治戦観戦

川村 敬史(平成18年卒)

5月27日に行われた東京六大学野球法政VS明治戦を観戦しました。

今回は経営学部同窓会との合同観戦で公認会計士法友会からは3名の参加がありました。

当日はよく晴れて5月らしく涼しい風が吹き観戦には絶好の日でしたが試合展開は法政と明治、長きにわたるライバル校が点を

取り合う抜きつ抜かれつのシーソーゲームを繰り返すという手に汗握るもので見応えがある内容でした。

試合は法政が5回表で明治を逆転し試合後半は守りきり4対3で見事勝利しました。

2018年春季リーグ戦は第7週が終了し法政の順位は5位となりましたが2018年秋季リーグ戦こそは優勝してほしいものです。

公認会計士法友会

公認会計士法友会事務局

〒169-0074

東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ301

E-mail: hosei.hoyukai@gmail.com

母校の発展と後進育成への貢献を
目指して活動しています。

6月末現在の会員数 715名

ホームページもご覧下さい。

<http://hoyukai.la.cococan.jp/>

IDはhoyukai

パスワードはhakone102

(平成30年1月20日より)



編集後記

六大学野球観戦の記事を川村会員に記載していただいておりますが、私も一緒に見ていました。手に汗を握る展開でした。最終回で抑えた時には、拍手していました。

新年度のイベント予定で、この会報で触れていないものをご紹介します。

法政士業の会定期総会は平成30年11月17日、公認会計士試験合格祝賀会は平成31年1月26日、オール法政新年を祝う会は平成31年1月27日、となっております。皆さん、ご予約のほど、よろ

しくお願いいたします。



物故者について

今年度において、下記の会員の方が永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

故 鳴嶋 壽久(昭和45年卒)、白鳥 駒成(昭和18年卒)

年度会費及び寄付金のご協力のお願い

法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われておりますが、合格祝賀会などの行事開催費、通信費などの運営諸経費、他校の会計士団体への参加費、慶弔費などの支出が必要で、会員各位のご理解とご協力なくしては、持続的な活動が出来ません。

最近、会費及び寄付金を納めていただける方が固定化し、また、減少傾向にあります。一方、会員の増加で、定期総会や合格祝賀会のご案内にかかる通信費、会報や住所録の作成費用が増大しています。皆様の、ご理解とご協力を強くお願いする次第です。

今回の会報発送とともに、平成30年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)会費の納入と寄付金のお願いをさせていただきます。

また、平成28年度から「公認会計士試験挑戦者に対する奨学支援金制度」(以下、奨学支援金)がスタートしており、この支援金は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われることとなります。

毎年、寄付金等をお支払いいただく際に、いったいいくら納入すればよいのか分からないなどのご意見・質問が寄せられます。法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金の納入で支えられていますが、皆様に大きな負担を感じさせるのは本意ではありません。あくまで会員の皆様のご厚意をお願いするものであります。

年度会費の5,000円だけでも結構ですし、年度寄付金・校友会寄付金・奨学支援金・その他寄付金などの寄付金として寄付金5,000円(一口)を加えて合計10,000円を納入いただければ助かります。

もし、ご理解をいただけるのであれば、年度会費の5,000円と寄付金の10,000円(二口)、合計15,000円を納入いただけますと大変助かります。

振込先を記入した郵便振替口座用紙を同封させていただきましたが、銀行振込をされる場合は下記の口座にお願いいたします。

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 東中野支店(店番152)

普通預金・口座番号 1559256 口座名・公認会計士法友会

<連絡先> 〒169-0074 東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ

公認会計士法友会事務局

080-8886-0375 / hosei.hoyukai@gmail.com

Books!

書籍の出版情報を事務局までお寄せください。会報に掲載いたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。

以下の執筆情報をいただきましたので、掲載いたします。



(ケース別)非上場会社の株価決定の実務

著者: 山本成男会員(平成6年卒) 出版: 株式会社中央経済社

※書籍寄贈中止のお願い

会計大学院(イノベーション・マネジメント研究科アカウントング専攻)の廃止に伴い、書籍を開架しておく場所が無くなってしまいました。新しい場所が見つかるまで、書籍の受入は中止させていただきたく、お願いいたします。この場合でも、出版情報は引き続き掲載したいと思いますので、お寄せいただきますよう、お願いいたします。